

サービス活動は“生涯学習時代”等、社会環境の変化を敏感に反映してか、社会人の利用が着実に増加している一方、それまで全体の半数近くを占めていた児童（小・中学生、幼児）は漸減傾向にある。

それは、児童の絶対数が減少していること、生活がますます多忙化していることに加えて、身近に読書施設の新設、充実があったこと等にもよるものと考えられるので、必ずしもマイナス要因のみとは思えないが、今後の学校図書館の整備・充実策の動向とも関連して当館自体の努力はますます必要となつてこよう。

1 調査相談

何らかの情報あるいは情報源を求めている利用者に対して人的援助を行う業務で、その具体的内容は、利用者の調査研究に対する援助と、参考質問に対する回答の二面性を持つが、その基盤となる関係資料の整備、資料運用力の向上、利用者対応の改善等に意を注いだ。

その結果、総件数は10,948件で前年度比15.1%の大幅な増加を見た。

〔表3〕 記録された参考質問の分析

(単位:件)

区分	郷土資料	一般			逐次刊行物	小計	児童	計
		人文	社会	自然				
口頭	1,685	1,621	1,644	1,289	773	7,012	463	7,475
電話	1,182	739	598	268	411	3,198	103	3,301
文書	137	8	15	0	10	170	2	172
計	3,004	2,368	2,257	1,557	1,194	10,380	568	10,948
		6,182			1,194	10,380	568	10,948

2 館内閲覧

種別・形態別・主題別に体系化した約14万5千冊の公開資料をはじめとする全蔵書を館内で自由に、また快適に閲覧できるように配慮した。

即ち、社会人用の閲覧席を主に、利用席をそれまでの120から計230(机、椅子のみも含めて)に増設したほか、資料配置や資料検索のための案内等に工夫した。

また、利用者の声を館運営に反映させるための配慮も行った。

3 館外個人貸出し

資料・情報を求めるすべての人々にそれを提供することが図書館のもっとも基本的な任務であるが、それを質的にも高めていくサービスが当該業務である。いつでもどこでも、自分の都合のよいときに図書館の本を見ることができるよう、一度の来館で、4冊以内、2週間期限の館外への個人貸出しを行っており、誰でも利用できる。

本年度も利用し易い条件づくりに務めた結果、登録者・利用者・利用冊数のいずれにおいても、前年度との比較で各々

4.4%、1.7%、0.1%の増加を見た。

〔表4〕 館外個人貸出利用者数

区分	人数	構成比(%)	区分	人数	構成比(%)
勤め人	11,517	43.0	学生生徒	7,899	29.5
自家営業	1,026	3.8	小計	26,757	100.0
主婦	3,253	12.2	児童	22,152	-
無職	3,062	11.5	合計	48,909	-

〔表5〕 館外個人貸出利用図書冊数

分類	冊数	構成比(%)	分類	冊数	構成比(%)
総記	1,424	2.1	語学	993	1.5
哲学・宗教	3,254	4.8	文学	14,934	22.2
歴史・地理	6,595	9.8	郷土資料	3,931	5.8
社会科学	12,291	18.3	雑誌	1,778	2.7
自然科学	6,132	9.1	小計	67,293	100.0
工学・工業	5,740	8.5	児童	71,755	-
産業	3,230	4.8	合計	139,048	-
芸術	6,991	10.4			

〔表6〕 入館者数・登録者数

開館日数	入館者数	登録者数(うち児童)
275	238,114	15,603(6,400)

4 特別貸出し

現行「館外個人貸出し」のみでは対応できない事態に対応するための制度で、対象者、貸出資料、冊数、期間等の面での配慮を行い、きめの細かいサービスを心がけた。

〔表7〕 特別貸出状況

貸出先	件数	冊数
官公庁関係	38	162
図書館その他	21	58
会社・事業所	6	13
報道関係	15	38
学校	22	77
一般利用者	37	93
計	139	441